

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

# 伝統ある南部鉄器に新たな可能性を

鈴木成朗 岩手 / 南部鉄器職人

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりの挑戦「匠」を応援する。

## レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、また「まもんの生みの親」でもある小山薫堂氏をプロジェクターのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家)東京大学教授、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト)アイト・プロデューサー(下川一哉氏)意匠研究所(ら)をサポートメンバーに発足。昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。



作品に込めた思いを伝える

若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身も「Webメディア」への掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年度、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフセッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に



1月17日、プレゼンテーションにて



商談会で説明する鈴木さん

に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。



エリア・コンサルティングにて

「伝統」を守りながら「新しい感覚やテクノロジー」を吹き込む。「地域の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。

LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。岩手県選出の匠、南部鉄器職人の鈴木成朗さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

## 日本の感性や伝統の技を発信

岩手が世界に誇る地場の伝統産業・南部鉄器。鈴木さんが代表取締役を務める鈴木盛久工房は約400年の歴史を誇る日本を代表する老舗工房だ。伝統を守りつつも新しいものづくりに取り組む思いが強い鈴木さん。美術学校講師やアパレルブランドのグラフィックデザイナーを歴任した経験を生かし、多彩なアイデアで南部鉄器の新たな可能性を切り拓いている。

今回鈴木さんが作り上げたのは大型の鉄製花瓶「折縞紋玉形花瓶」おれしまもんだまがたかき。球体のように丸い本体に施された図柄は、屈折した縞模様で回転させてみると面白い効果のある模様。口周りが高台には同じく岩手の伝統工芸である漆塗りを施し、光沢による質感の差と由に浮く浮遊感を感じる造形を目指した。



作品プレゼンする鈴木さん

南部鉄器といえば海外でも人気を誇る鉄瓶が広く知られているが、このプロジェクトで作るなら、より広いターゲットで価値のあるもの、日本の感性や伝統の技が感じられるものを作りたいと考え、「和とラグジュアリー」をテーマに据えた。和室で使われることがほとんどの鉄瓶や茶の湯金はシーンが限定されるが、花瓶は場所を選ばずあらゆる世代や国での使用が可能となる。ホテルのロビーや、空港のラウンジ、企業応接間やギャラリー、ホールなどモダンな和室

なら、より広いターゲットで価値のあるもの、日本の感性や伝統の技が感じられるものを作りたいと考え、「和とラグジュアリー」をテーマに据えた。和室で使われることがほとんどの鉄瓶や茶の湯金はシーンが限定されるが、花瓶は場所を選ばずあらゆる世代や国での使用が可能となる。ホテルのロビーや、空港のラウンジ、企業応接間やギャラリー、ホールなどモダンな和室

## 新たなライフスタイルにもマッチ

花瓶といえば陶器やガラス製こそよく見かけられるものの、鉄器の花瓶を見ることは少ない。鈴木さんは「鉄は水に弱い、錆びてしまうのではないかとと思われるかもしれないが決してそうではない。確かに鉄と錆は切っても切れない関係にあるが、錆による趣も鉄という素材がもつ魅力であり味わい。花や草木を静かに佇ませ、劣化や消耗も趣とする。日本の先人達が『侘び寂び』という言葉で表現してきた感性をこのプロダクトで体現できれば」と考えた。

「前進」挑戦するイメージ」を持った花瓶の制作に挑んだ鈴木さん。普段は鍛造する鋳型をベースに考案するが、今回は原型作りから作業をスタートさせた。球体の上半分にモダンな模様を入れた花瓶の型を見た下川氏は「鉄瓶のように火にかけないからこぞできる装飾を。漆を使って強めの色を入れ、サイケデリックのような方向もいいのでは」とアドバイスした。折縞紋玉形花瓶は新たなライフスタイルを提案するセレクトショップ・ピームスジャパンともコラボレーション。同社コミュニケーションディレクターの土井地博は「南部鉄器が持つ重厚感と漆の光沢のコントラストがとても興味深い。生花のほかにドライフラワーなど柔らかい花でコントラ



完成プロダクト「折縞紋玉形花瓶」



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



サポートメンバー下川氏と共に



鈴木成朗 岩手 / 南部鉄器職人

岩手県盛岡市生まれ。1625年より続く南部鉄器工房、鈴木盛久工房の16代目。東京藝術大学工芸科を卒業後、美術学校講師、アパレルブランドのグラフィックデザイナーを歴任。2008年より鈴木盛久工房で鍍金工芸を始める。2015年から2年間南部鉄器協同組合青年部部長を務め、南部鉄器業界の振興にも尽力している。



鈴木さんの作業風景

ストをつけても面白い」と高く評価した。南部鉄器の新たな魅力を引き出した鈴木さん。「今後も鉄

瓶だけでなく、南部鉄器の新たな可能性にどんどんチャレンジしていきたい」と意気込みを新たにしている。

